

令和3年度 自己評価結果公表シート

令和4年5月31日 光の園幼稚園

1、本園の教育目標

- ・ 生きる力の基礎を養うため、健やかな身体と豊かな心情を育てる
- ・ 「勇気と感動とやさしさと」をスローガンに、お話の世界に遊び、楽しく表現し、輝くような心と感性に満ちた創造力を育む
- ・ 発見・工夫・伝え合い（令和3年度）

◎ 取り組みに際して念頭においていること

- ・ 五感を使って自然に親しむ
- ・ お話の世界を楽しむ
- ・ 自分の思いやイメージを自由に表現する素地を作る
- ・ 人とのかかわりを大切にして人への信頼感をもつ
- ・ 子どもたちの思いやつぶやきを受け取り保育に活かす

2、令和3年度重点的に取り組む目標や計画

- ① 普段の遊びの中で子ども一人ひとりの育ちを捉える
- ② 子どもの育ちに本当に必要な遊び・活動・行事のあり方を目の前の子どもの姿から考える
- ③ 保護者と子どもの育ちについて共感できる発信方法を考える

3、評価項目および取組状況

評価項目	取り組み状況
① 普段の遊びの中で子ども一人ひとりの育ちを捉える	今年度も新型コロナウイルスの影響でできる活動に制約もあったが、ゆっくりと様々な遊びに関わることでできるコーナーを継続して設けることができた。子どもたちの発想を活かし、長期にわたって遊びを展開し、様々な学年の友だちとの関わりを持ちながらお互いに刺激を受け合うなど様々な育ちに気づき、話す、記録を書くといった方法で保護者や保育者間で共有していた。そこで見られた育ちを次の保育に活かすという視点をさらに持っていきたい。
② 子どもの育ちに本当に必要な遊び・活動・行事のあり方を目の前の子どもの姿から考える	今年度もコロナ禍にあって子どもの育ちを見ていただける機会としての行事の持ち方を変えざるをえなかったり子ども主体に変えていったりしている。子どもが主体性を発揮しているとそれに伴って育ちもたくさん見られたが、保育者の方が

	「こうあるべき」と考えてしまう場面も見られた。反対に「子ども主体」の意味をしっかりと教員間で共通認識する必要性を感じる場面も見られた。
③保護者と子どもの育ちについて共感できる発信方法を考える	例年とは異なる取り組みもあったが、子どもの今の姿を1週間ごとに発信したところ、少ないながらも育ちを直接見ただく機会の一助となり、家庭での会話につながるなど子どもの学びについてご理解いただいた部分も多くなり保育者も手ごたえを感じているところである。

4、令和3年度の目標や計画の総合的な評価

子どもたちは自由遊びでも行事でも主体性を発揮しながら「自分たちの遊び」という意識を持っていた。その中で子どもたちの何が育っているのか見極め、子どもの育ちやクラス・活動の記録を保護者とも、保育者間でも共有し、理解も得られているが、育ちの共有とともにその先の見通しについても保育者間では話し合う場を持ち、よりよい環境や保育者の連携にもつなげる必要性を感じている。

行事においても子どもたちが主体的に関わる姿は多くなっているが、例年の慣例に従って…という保育者側の思いが残っている場面も感じられるので主体性を発揮できる内容の見直しや保育者が育ちの見通しを持って子どもたちがさらに深く探究しようと思えるような問い、きっかけ、環境を準備することも必要となってくる。

保護者への発信についてはある程度見通しが立っているが、その記録を活かして保育者同士で次の保育につなげる方法を模索する必要性も感じている。

5、今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
①子ども一人ひとりの育ちとクラスや活動の発展・経過の捉え方や育ちの方向性の教員間での共通理解を図る	こまめに振り返る時間を設け、話し合う中で育ちを見取る視点や大切にしたいことを確認し、保育者間の連携につなげる。
②子どもの育ちに本当に必要な遊び・活動・行事のあり方を目の前の子どもの姿から考える	目の前の子どもの姿から今年このクラスの子どもに必要な保育の内容や方法を考える。また、考え方の保育者間での共通理解を図る。
③保護者とも保育者間でも子どもやクラスの育ちや活動の過程が共通認識できる方法を考える	形式的なことに限らず、伝えたい内容（子どもの育ちやクラス・活動での育ち）を見取る視点や大切にしたいこと、育ちのバランスをどう取るか、「その先」にどう活かしていくのかを考える。

6、学校関係者の評価

特に指摘すべき点はなく、妥当であると認められる。